

## 巻頭言：植生史研究を年間2号発行するにあたって

植生史研究は、この第4号から1年度内に2号発行されることになりました。当面、6月と12月に発行予定なので、つづく第5号も年内には発行されることとなります。このように年度2号発行に踏み切った理由は主に3つあります。

第1は、雑報の多くを占めるシンポジウムの記録や植生史研究関連文献リスト編集の合理化です。これらの雑報は総説原稿を編集するのとは異なり、印刷原稿とする前にも後にも多大の時間と労力を要します。たとえばシンポジウム記録は、テープ起こしに始まり、第1次原稿から第2次原稿へとといった具合です。また、文献リストは文献収集からカード化、コメントを付けるまでには、かなりの人の労力もしくは時間が必要です。このような編集を年度2回に分けることは、編集に余裕をもたせるだけでなく、より充実したものにすると考えられます。

第2は、総説原稿の増加に答える一方で、印刷経費を維持することです。本誌に寄せられる総説原稿には、主にシンポジウムや生態学会大会での談話会の話題提供がありますが、これらは年々増加の一途をたどっています。最近では話題提供以外の投稿原稿も寄せられ、総説原稿量は1号ではおさまらなくなってきました。植生史研究発行に要する経費を維持しつつ、こうした問題を乗り切るには、2号分割にした上、上記の雑録原稿の印刷を事務局でのワープロ打ち出し原稿のオフセット印刷にするのがもっとも手短な方法です。ご覧の本号はこのような考えのもとにできあがったものです。

第3は、年度に各1回開催するシンポジウムと談話会の案内や記録、あるいは話題提供内容の総説、さらに書評や新刊紹介についても、それらはできるだけ速度性のある情報であることが望ましいからです。これまでに何度かシンポジウムや談話会の案内を個別にお送りしたことがありますが、それは雑誌の発行時期と案内を送付すべき時期のタイミングが合わなかったことによりです。

このように年度2号発行は、2号への分割案が基本になっています。こうした編集・運営法が、編集を合理化し情報の速度性を維持することはいうまでもありませんが、限られた会費の枠を維持するという重要な効果をもっていることを忘れてはなりません。2千円で年度2号発行をどこまで続けることができるか定かではありませんが、会員の皆さんの協力なしでは継続はありえないことは確かです。

植生史研究会も発足して4年目を迎え、雑誌も順調に第4号を発行するところまでできました。この間に、英・米からは本誌の買取りや雑誌交換の依頼がくるなど、対外的な交渉も増えてきました。この先こうした交渉はさらに増してくることが予想されます。本誌は英語の題目しか付いていませんが、必要に応じ識者によって紹介されているとも伺っています。ともあれ、本誌が買

取りや雑誌交換によって海外に流出しつつあることは歓迎すべきことであると思います。

さて、本誌の挟み込みに案内されているように、今年度の植生史研究会シンポジウムは11月11・12両日、滋賀県琵琶湖研究所で開催されることになりました。これまでの3年度は、事務局を置く大阪市立大学で開催してきましたので、シンポジウムが大阪以外で開催されるのは初めてのことです。世界湖沼会議など大小さまざまな会議が開催されてきた琵琶湖研究所でシンポジウムが開催できることは喜ばしいことです。少しずつ輪を広げながらいろいろなところで開催していこうという研究会発足時の願いが、また一つ叶えられることとなります。また、すぐ隣の共済施設おおみ荘で懇親会をもち、そのまま宿泊できるようになっていますので、膝を交えた議論にも拍車がかかるのではないかと思います。多数の参加と活発な討論を期待したいと思います。

1989年6月10日 辻 誠一郎

---

#### 植生史研究バックナンバーの案内

既刊の本誌第1号から第3号の主な目次は以下のとおりです。在庫がありますので、ご希望の方は植生史研究会事務局(大井信夫担当)までお申し込みください。第1号は残部がわずかです。各号とも2,000円(送料込み)です。お申し込みは郵便振替(大阪8-70087 植生史研究会)が便利です。

- 第1号(1986年8月)日本の第四紀植生史研究の諸問題(辻誠一郎)。第四紀大型植物化石研究の課題と問題点(南木睦彦)。陸生珪藻による古環境の解析とその意義—わが国への導入とその展望(小杉正人)。スギとアケボノスギの花粉形態—その研究の歴史(相馬寛吉)。近畿地方におけるスギの変遷(要旨)(高原光・竹岡政治)。関連学会の紹介—日本林学会。
- 第2号(1987年10月)日本の埋没林研究に向けて(宮地直道)。木材遺体群集からなにが分かるか(能城修一・鈴木三男)。遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点(杉山真二)。関連学会の紹介—日本第四紀学会。第1回植生史研究会シンポジウムの記録。植生史研究関連文献リスト—1985年。
- 第3号(1988年9月)水域における花粉の運搬と堆積(松下まり子)。大型植物化石群集のタフオノミー(百原新・南木睦彦)。新生代植物研究の現状と今後の課題—とくに第四紀植物に関連して(植村和彦)。関連学会の紹介—花粉に関わる4つの会。第2回植生史研究会シンポジウムの記録。植生史研究関連文献リスト—1986年。